第 2015-10 号

恵みと真理のニュース

2015 年 3 月の二次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

私の家族に信仰を下さり愛と平安で主が与えた使命を良く担えるように導いてくださって真に感謝します

私は神様を知らなくて信じなかった不信家庭で生まれました。幼年ごろ田舎で住む時に朝ことに教会で鐘が鳴ると心が平安になりました。教会に通う子供達をみると家庭環境がとても貧しくても暗いところがなくていつも明るい事がおかしく見えました。その理由で私もいつかは教会に行ってみたいと思いました。しかしその心はその時だけでした。

1986年不信者であった青年に出会い結婚しました。以後3人の娘を産み経済的には問題なく暮らしました。しかし子供だちが育ち生活が安定になると私の心が空しくなりました。世の物からは満たされない渇きがありました。そうするうちにある日から二番目の娘が中耳炎を患いました。風邪の症状が長続き高熱をして陣痛剤と解熱剤を飲み病院を長い間治療を受けましたが治らなかったです。そのごろ恵みと真理教会に通う区域長に伝道されました。私に心を尽くして福音を伝え恵みと真理のニュースも渡して是非読んでみると勧めました。区域長をついて教会に通い始めました。はじめは協会で使う用語がなれなくて説教御言葉もすぐ理解出来なかったですが熱心に礼拝に参席しました。するとどんどん御言葉と聖霊の恵みで説教を悟り真実に罪を悔い改めイエスキリストを救い主で受け入れました。神様を離れて生きて来た罪を悔い改めたら言葉で表現できない神霊な主の平安が来ました。心の空しさがなくなり罪が赦され主と共に新しく生きる事がうれしくて神様の御言葉が期待するようになり礼拝を待ち望むようになりました。愛が多くて全能なる神様に娘の健康回復のため祈り始めました。主日の礼拝で百夫長のような信仰を持つことを願いながら”主よ、わたしはあなたを自分の屋根の下にお迎えできるような者ではありません。ただ、ひと言おっしゃってください。という心で祈りました。そして平日礼拝に参席して当会長の牧師が神癒の祈りをする時に願ったとおりに二番目の娘の病気がきれいに治りました。神様の御言葉の真実さと全能なることを体験してから私の心にもっと喜びと感謝が溢れました。その事によって旦那と子供もイエス様を受け入れ家庭の福音化になりました。ハレルヤ！！

神様に受けた恵みと感謝で神様を知らない人々に福音を伝える願と熱心が出来ました。毎日恵みと真理ニュースを持って出会う人に福音を伝え神様が生きておられる事を証拠し始めました。“ だれでも、求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたく者には開かれる。あなたがたの中に、魚を欲しがる子供に、魚の代わりに蛇を与える父親がいるだろうか。また、卵を欲しがるのに、さそりを与える父親がいるだろうか。”聖霊洗礼を愛し伝道ため大胆さと知恵を求める時聖霊洗礼をくださいました。聖霊充満を受けました。希望した区域長の職分も受けました。職分を受けて使命感と責任感が加えられ神様の国と義を求める事に力を尽くしてやりがいと幸せになりました。神様は旦那と子供達に祝福を与えてくださいました。旦那は案手執事になり、娘も神様が下さった才能で聖歌隊でピアノ伴奏をしてバイオリンで熱心に仕えています。私も神様が下さった恵みによって首区域長として区域を仕え女性奉仕連合会と美化部で教会を仕えています。

このような不信家庭が神様の恵と愛で毎日を行き神様だけを誇り仕える信仰の家庭なりました。二人は言った。「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも家族も救われます。」（使徒言行録16：31）神様に与えてくださった限りない救いの恵みに感謝します。

わたしたちは、あなたがたおのおのが最後まで希望を持ち続けるために、同じ熱心さを示してもらいたいと思います。あなたがたが怠け者とならず、信仰と忍耐とによって、約束されたものを受け継ぐ人たちを見倣う者となってほしいのです。（ヘブライ人への手紙6：11,12）

アーメン私の全ての家族が信仰の上に立て主の前に立つ日に褒められる聖徒になることを願い神様二全ての栄光を捧げます。

［信仰コラム］

祝福とのろい

″,,,,,わたしは、きょう、あなたがたの前に祝福と、のろいとを置く。もし、きょう、わたしがあなたがたに命じるあなたがたの神、主の命令に聞き従うならば、祝福を受けるであろう,,,,,″(申命記, 11:26～28)

人が呪いを嫌悪して福を受けるのを願うことは人の常で当然之事です。 ですが祝福とのろいに対する正しい知識と理解を持つことができなかった人があまたあります。 何が福であり、何が呪いなのかに対して大多数の人が自ら正義を下げてからはすべて分かることで心に刻んでおくからその真正な知識を得ることができないです。 祝福とのろいに関する正しい知識を得ようとすれば聖書を上告しなければなりません。真実で祝福を受けるのを願う人は聖書に記録された神様のお言葉に耳を傾けなければなりません。

第一に、祝福とのろいの本質に関してよく見ます。

聖書に使われた福という用語は神様がくださる贈り物という概念を持っています。 聖書に福という用語が初めて登場する所は創世記 1 章です。 創造主の神様を前提しなくては福を思うことができないです。 福の出処は神様で福は神様がくださる贈り物です。 呪いという言葉が聖書に初めて記録された所は創世記 3 章です。 アダムの犯罪によって下ろされた神様の呪いは手広くて持続的なことで人が経験する苦痛と悲しみと死そして地獄の刑罰がここに属します。

二番目で、呪いを免れて福を受ける道に関してよく見ます。

呪いは罪からよりました。 人間の努力と方法では罪で自由になることができないしまた呪いから脱するあてがないです。 私たちがこの世の中で受ける呪いは皆が罪の結果であり、来世において受ける呪いはその罪に対する最終的な審判による懲罰です。 ところで神様が私たちの人生が呪いを免れて福を受ける道をくださいました。 その道が本文お言葉に明らかに啓示されました。 神様の命令をきかなければなりません。聖書に啓示された神様の命令を結集した結論は神様が送った救世主であるイエスキリストを信じて創造主であがないの主である神様のみを仕えなさいというお言葉です。 呪いの下あろうかそれとも福を選ぶかに対してすべての人に決断が要求されています。 誰でもイエスキリストを信じれば罪と呪いで解放される福を受けるようになります。 これが聖書に啓示された福音です。

三番目で、福の概念をもう少し詳細的によく見ます。

東洋的な福の概念で言えば長く生きること、金持ちになること、肉体が元気で心が楽なこと、道徳守るのを楽しみにしてこういうわけで他人から尊敬を受けること、自分の命に住んで行って楽に死ぬことこの五つ(壽, 富, 康寧, 攸好德, 考終命)を言います。 聖書にもこの五つと環境的に美しくて豊かな状態を福から除外させていないです。 アダムが罪を犯す以前に神様がくださった自然環境は人間の生に不便と不足がないし苦痛と悲しみがない状態でした。 また神様はアブラハムにをくださって肉畜と銀金が豊かにさせました。 神様を敬い畏れる者等が肉体的な必要事項を求める時これを拒否しなかったです。 イエス様も日用する食糧すなわち私たち日常生活に必要なすべてのものなどを神様の父に求めながら祈りなさいと教えました。

しかし私たちが必ず念頭に留めおかなければならないことがあります。 神様がくださる一番大きくて完全な福は罪の赦し受けて義のあるようになって神様の子になって天国で永遠に住むようになるのです。 もしこの地で持って享受するどんなことでもこのような救いの福を受けるのに障害物になったらそれは福ではなく呪いになるでしょう。 イエスキリストを信じて救いを得るようになったよりもっと大きくて貴重な福はないです。 この世の中に生きて行く間にもし願わない苦痛と欠乏があると言っても救いの福を受けた人にそれは大きい問題にならないです。 主の中で信仰と感謝に手におえて行けば終局にはその難しさ皆が有益な結果を得させてくれるでしょうからだ

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

私はイエス様の天に昇りと再臨を信じます

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

先週の主日には使徒信條の中にイエスキリストの誕生と死と復活に関してよく見ました。 イエス様の超自然的な誕生と死と復活はイエスキリストだけが救世主で私たちが神様のみもとに進むのができる唯一の道であるのを証明する確かな証拠です。 先の告白文につながる部分は“天に昇り全能の父なる神の右に座したまえりかしこより来りて生ける者と死ねる者とを審きたまわん”です。 今日はこの部分をよく見ます。

第一部分は、“天に昇り”です。

復活したイエス様は 40 日間多様な場所と多くの人々に現わしたように見えている途中終わりには甘藍山の上で 500 余人の群れが見守る内に天に昇るとき雲がイエス様をかこまれるようになって見えなくなりました。 イエス様は超自然的な方法で天からこの世の中へいらっしゃったし、超自然的な方法にこの世から天に昇りました。 イエスキリストが昇った天は神様の宝佐がある所です。 イエスキリストが伝えた福音は天国福音でした。 イエス様が山の上で弟子に八種のさいわいに対しておっしゃったが、こころの貧しい人たちは、さいわいである、天国は彼らのものである。 義のために迫害されてきた人たちは、さいわいである、天国は彼らのものである。 とそれを終えました。 八種のさいわいの中に第一さいわいが天国を所有するさいわいで最後のさいわいも天国を所有するさいわいです。 人々がいただくようになるさいわいの中に最高のさいわいが天国に入るさいわいという意味がよく現われています。イエスキリストが弟子に約束しました。 “わたしの父の家には、すまいがたくさんある。もしなかったならば、わたしはそう言っておいたであろう。あなたがたのために、場所を用意しに行くのだから。そして、行って、場所の用意ができたならば、またきて、あなたがたをわたしのところに迎えよう。わたしのおる所にあなたがたもおらせるためである。”（ヨハネによる福音書 14:2,3） イエスキリストが予備なさって聖徒が永遠に住むようになる所は父の家、神様の帳幕、楽園、天国、新しいエルサレムなどと呼ばれます これ皆を合わせて称える名称が天国です 天国は私たちの主イエス様が親しく統治する所です。天国の位置と場所は分かることができないが私たちが現在肉体で経験する時間と空間の領域を超越した所にあることが確かです ヨハネ啓示録 21 章と 22 章には天国にあることとないことが対照的に明示されています。 天国には天軍と天使だけあって悪魔と悪いものはないです義のあるようになった者だけいて罪人はいないです 真実だけあって偽りはないです美しさだけあってみにくいことはないです 昼だけあって夜と暗いはないです 永生だけあって死亡がないです 喜びだけあって哀痛と涙はないです 豊かだけあって貧乏と欠乏はないです 健康だけあって疾病はないです 愛だけあって憎しみはないです イエス様は聖徒のためにこのような家を予備なさろうと天に昇りました 聖徒はこんな事実を信じるから余裕と所望を持って生きて行きます。

二番目部分は、“ 全能の父なる神の右に座していらっしゃってから”です。

これはイエスキリストがあがないの使役を果したことを現わしています。 罪深い人間が神様の国に入ろうとすれば二つの要件が必要です。罪があってはいけなくてまた義のあるようにならなければなりません。 イエス様が十字架に釘付けられて死んだことは私たちの罪をあがないするためなのです。 そしてイエス様の復活昇天は彼のあがない使役が完遂されたことを確証するのです。 他に言ってイエス様を信じる者が義のあるようになったということを意味します。 イエスキリストが神様の右に座ったということは彼の絶対主権を現わしています。詩編 110 編に “主はわが主に言われる、「わたしがあなたのもろもろの敵をあなたの足台とするまで、わたしの右に座せよ」と。主はあなたの力あるつえをシオンから出される。あなたはもろもろの敵のなかで治めよ。主はあなたの右におられて、その怒りの日に王たちを打ち破られる。”（詩篇 110:1,2,5） しました。 神様の右に座ったイエス様の統治権は絶対的なのです。
イエス様が神様の右に座ったということはイエスキリストが私たちのために切に求めることまで含んでいます。 ローマ人への手紙,8 章 33 節、34 節に記録されるのを “だれが、神の選ばれた者たちを訴えるのか。神は彼らを義とされるのである。だれが、わたしたちを罪に定めるのか。キリスト・イエスは、死んで、否、よみがえって、神の右に座し、また、わたしたちのためにとりなして下さるのである。” 言いました。 “天に昇り全能な神様の右に座ったイエス様に私は信じます。” このような告白をする人はイエスキリストにあって義のあるようになりました。 そして神様宝佐の右で私たちのために切に求めるイエス様を思って胆大に生きて行くことができます。

三番目部分は“かしこより来りて、生ける者と死ねる者とを審きたまわん”です。

イエスキリストが再臨なさる理由と目的に関して聖書に明らかに啓示されています。 またいらっしゃるイエス様は人々を審判するためにいらっしゃいます。イエス キリストが行う審判を三つの種類で分けることができます。
第一、聖徒が受ける審判があります。 これを功力の審判または賞の審判だと言います。 聖書に次のように記録されています。 “もしある人の建てた仕事がそのまま残れば、その人は報酬を受けるが、その仕事が焼けてしまえば、損失を被るであろう。しかし彼自身は、火の中をくぐってきた者のようにではあるが、救われるであろ”（コリント人への第一の手紙, 3:14,15）、“見よ、わたしはすぐに来る。報いを携えてきて、それぞれのしわざに応じて報いよう”（ヨハネの黙示録, 22 :12). 第二、イエスキリストを信じない者が受ける審判があります 地獄の刑罰に処する審判です。 第三、悪魔とその使いが受ける審判があります。 一千年の期間に無底坑に閉じこめられるようになります。その後には火の池に投げられます。 地獄は ‘陰部’ ‘悪魔とその使いのために予備された永遠の火の池’ ‘わずか硫黄で燃える’ ‘火の池’をひっくるめて称える名称です。どうしようが 地獄だけは行ってはいけないです。 イエスキリストがおっしゃるのを “また、からだを殺しても、魂を殺すことのできない者どもを恐れるな。むしろ、からだも魂も地獄で滅ぼす力のあるかたを恐れなさい。”（マタイによる福音書 10:28） しました。

イエスキリストがいつまたいらっしゃいますか? という質問に対する答が聖書にあります。その日付と時刻に対しては誰も分からないと言いました （マタイによる福音書 24:36） そうであるが神様の再臨が身近に近付いたということを知らせてくれる徴兆が啓示されています。私たちはこのような徴兆を注意深くよく見る必要があります。 再臨の徴兆は多くの分野に関わっています。
第一、自然界に現われる徴兆があります。 回数と規模がますます地震、津波、気象異変などです。 第二、国際社会に現われる徴兆があります。 属国になった国々の独立、イスラエル国家の回復、反キリスト帝国の形成、世界大戦、恐れる殺傷武器開発などです。 第三、社会的に現われる徴兆があります。 離婚率の増加と同性愛の普遍化などです。 第四、宗教界と基督教会に現われる徴兆があります。 宗教一致と統合運動、変質された神学、似以非異端の氾濫、大々的な背道の行為などです。 五番目、知識増大と交通通信の発達が急速になる徴兆です。 六番目、すべての民族と世界中に福音が伝える徴兆です。 だから聖徒はイエス様の再臨を備えて暮さなければなりません。 イエスキリストがおっしゃるのを “だから、目をさましていなさい。その日その時が、あなたがたにはわからないからである。”（マタイによる福音書 25:13)と言いました。
しかし一方では時限付き終末論者の惑いに気を付けなければなりません。 歪曲された終末論、歪曲された再臨の教理として聖徒を惑うのが大多数異端の態度です。 そうするから教会は聖徒にイエス様再臨に関して言うことをおろそかにしてはいけないです。 イエス様の再臨を備える一番基本的な姿勢は礼拝と伝道と奉仕に力をつくすのです。 そして福音を歪曲されさせる者等をきっぱりと排斥しなければなりません。イエスキリストが再臨なさる時聖徒が経験するようになる事に関してテサロニケ人への第一の手紙 4 章にこんなに記録されています。 “すなわち、主ご自身が天使のかしらの声と神のラッパの鳴り響くうちに、合図の声で、天から下ってこられる。その時、キリストにあって死んだ人々が、まず最初によみがえり、それから生き残っているわたしたちが、彼らと共に雲に包まれて引き上げられ、空中で主に会い、こうして、いつも主と共にいるであろう”（テサロニケ人への第一の手紙,4:16,17） もう肉体の死を経験した聖徒の魂をイエス様が連れていらっしゃるでしょう。 その魂が復活した身を着るようになるでしょう。 当時にこの地に住んでいる聖徒はあっという間に変化されるでしょう。“あちらとして”という言葉は “あちらで、あそこから”という言葉で思っては “神様の宝佐の右から”という意味です。

“天に昇り全能な 天に昇り、全能の父なる神の右に座したまえり、かしこより来りて、生ける者と死ねる者とを審きたまわん。またいらっしゃるイエスキリスト”を信じる皆さんは全く幸せ者です。